



はんどうかずとし

半藤一利氏、逝去

令和3年1月14日(木)

「日本のいちばん長い日」や「昭和史」シリーズなどの著作で知られる半藤一利氏が12日に亡くなりました。半藤氏は、日本近現代史を深く研究され、自ら「歴史探偵」を名乗るほどでした。14歳で東京大空襲を体験した後、母親の故郷である下妻市内に数ヶ月疎開し、旧制下妻中学校（現在の下妻一高）に在籍していました。そして、本校創立110周年記念式典の際には、記念講演を引き受けてくださいました。当時私は、下妻一高教諭として式典に出席して氏の講演を聴かせていただきました。戦中戦後の混乱した時代の生き証人として歴史を語る氏の言葉には迫力があり、大きな感銘を受けたことを思い出します。

氏は近現代、特に昭和史について数多くの著作があり、精力的な活動を続けていました。歴史認識については様々な意見があると思いますが、昭和史を語るときに半藤氏の名前を抜きに考えることはできないと思います。下妻の地で生活し本校で学ばれた氏のご冥福を心よりお祈りいたします。

